

緊急時の情報発信

● 緊急時にはデマが広がります

災害発生時や緊急時には、安否確認、緊急情報、最新の災害情報、救急救命情報の収集や支援要請の情報発信などスマートフォンなどのモバイル端末を使ったコミュニケーション手段が大きな役割を果たしています。反面、メールやX（旧Twitter）、LINEなどのSNS上では、実際に起こっていない事故や事実と異なる情報、必ずしも正確ではない情報、面白半分で載せたウソの情報などが発信されデマとして広がります。過去の震災、大型台風による災害時も、多種多様のデマ情報が発生しました。

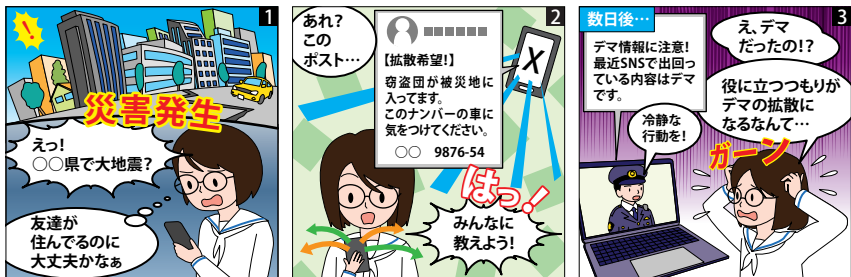


● デマが広がる理由

緊急時においては、人々は、不安な状況が続く中、少しでも役に立つ情報を得ようとします。そして、「役に立ちそうな情報」を見つけると、「みんなに伝えるべき情報」と考え、情報の信頼度にかかわらず、友人や知人へ伝えようとします。

友人や知人から得た情報は、一般的にその価値を高く見てしまうようで、チェーンメールとなったり、SNS上で拡散していきます。

SNSでは書き込み後、ボタンひとつで全世界に情報を発信することができます。災害時のこうした拡散しやすい状況と便利なツールが重なり、災害後にデマが広がりやすくなっていきます。



●デマがもたらす悪影響

1. 内容によっては混乱を引き起こしたり、被災者の不安を拡大させる

災害時や緊急時だからこそ、正確な情報が必要です。真偽を確かめないまま情報を送ることは、たとえ善意の気持ちからであってもやめましょう。

2. 誤った情報や不確かな情報は混乱や活動に支障をきたすおそれがある

刻一刻と状況が変わる中で、最初は正しかった情報だったとしても時間の経過により誤った情報になることも考えられます。不確かな情報は、現場に無用の負担を強いることになりかねず、現場が混乱し活動に支障をきたしかねません。

3. 限られた通信環境を圧迫し、必要な情報が行き届かないことにもなりかねない

デマ情報の拡散で、通信ネットワークの負荷が上昇し通信環境への深刻な影響を引き起こすことにもなりかねません。

●災害時や緊急時だからこそ、情報発信は正確に

真偽の分からない情報が拡散すると、本当に必要な情報を阻害する原因にもなりかねません。

もし、根拠の疑わしい情報・未確認の情報のメールやSNS上の情報を見たときは、もしかしたらデマかもしれないと疑い、まずは情報の真偽を確かめるようにしましょう。

情報を誰かに伝えるときは、真偽を確かめてから責任を持って発信するように心がけましょう。

- ✓ 情報の発信源は誰かを確かめる。
- ✓ いつの時点の情報かを確かめる。
→刻一刻と変わる現場では常に最新の情報が必要です。
- ✓ 複数の報道機関、媒体でも確認する。
→ネットの情報だけではなく、ラジオなど複数の情報源で確認しましょう。